

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.25

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

岩手大学三陸復興シンポジウム2013 「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を開催しました

12月7日、東京都板橋区教育委員会との共催で、岩手大学三陸復興シンポジウム2013「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を板橋区立シニア学習プラザにおいて開催しました。

東日本大震災の発生から2年半以上が経過した今、被災地域のコミュニティ再生のためには、その地域に定住している住民に加え、被災地域出身の方や震災を契機とした支援者・ファンの方が地域の外からコミュニティを支えることが必要になっています。

このような状況を踏まえ、今回のシンポジウムでは岩手大学で行われている震災復興活動について紹介するとともに、東京でも広がりつつある被災地コミュニティについて、参加者の方々の対話も交えながら考えました。

岩手大学の震災復興活動の紹介では、岩淵明理事・副学長から総合的な報告が行われたほか、被災学生である本学の2名の学生から体験談や、実際に被災地でコミュニティ再生



対話形式の活動紹介の様子

に取り組んでいる農学部の広田純一教授から東京で被災地コミュニティを広げることの意義について発表が行われました。

その後、東京で活動する被災地支援団体である「金石応援団-ARAMAGI Heart-」、「Youth for Ofunato」、「ふんばろう岩手プロジェクト」から、それぞれ対話形式での活動紹介が行われました。

会場の外では被災地の名産品をそろえた物産展や、震災直後の様子を撮影した被災地写真展も開催しました。物産展はシンポジウム終了までにほとんどの品物が完売となり、大盛況でした。

シンポジウム終了後には交流会も行われ、参加者の方々は岩手県ゆかりのお菓子を食べながら交流を深めていました。

今回のシンポジウムには、定員を超える約230名の方にご参加いただきました。被災地の復興にはこれからも多くの方の協力が必要です。岩手大学はこのようなシンポジウムを通して、様々な方との連携を深め、被災地の更なる復興に貢献していきます。



交流会の様子

三陸水産研究センター 塚越英晴特任研究員が 平成25年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰で特別賞を受賞

このたび、岩手大学三陸水産研究センターの塚越英晴特任研究員が平成25年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰において特別賞を受賞しました。

岩手県三陸海域研究論文知事表彰は、三陸海域における海洋及び水産研究の活性化を目的として、岩手県三陸海域に関する若手研究者の論文のうち、今後の研究継続により、さらなる成果が見込まれる研究又は独創性が高いと認められる研究を表彰するものです。

塚越研究員の「三陸岩手における河川遡上サケの遺伝特性の解析」と題した研究論文は、岩手の水産重要種であるサケについて遺伝特性分析を行い、県内には北上川水系河川と沿岸河川で構成される2つの遺伝グループがあることや、同一河川内の前期遡上群と後期遡上群は遺伝的に異なること、沿岸の河川でも河川ごとに遺伝的分化が見られることなどを示唆しました。

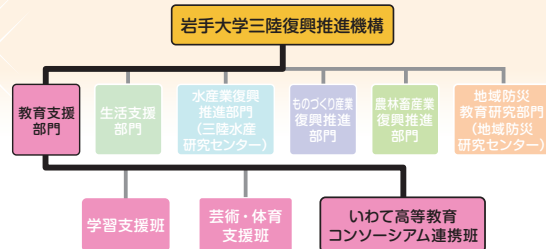
今後は、河川間の遺伝的交流の有無や、沿岸全ふ化場をカバーした遺伝特性の把握、沿岸の水産資源として貢献している系群の有無について解明するため、研究を継続していく予定です。



(左から)三浦靖三陸水産研究センター長、塚越英晴特任研究員、梶原昌五教育学部准教授、阿部周一特任教授

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、沿岸被災地の高校生といて高等教育コンソーシアム連携校の大学生がともに学ぶワークショップや、復興の担い手として必要な知見の獲得を目的とする講義を開講している、いわて高等教育コンソーシアム連携班の活動の一例をご紹介します。



いわて高等教育コンソーシアム連携班の取組

岩手大学三陸復興推進機構 教育支援部門 いわて高等教育コンソーシアム連携班
後藤 尚人 (人文社会科学部 教授)

いわて高等教育コンソーシアム連携班の活動は、岩手県内7つの高等教育機関(岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校)で構成されるいわて高等教育コンソーシアム(いわてコンソ)と岩手大学三陸復興推進機構との連携を行うことですが、広義にはいわてコンソが展開する事業活動そのものとも言えます。

いわてコンソでは、大別して「大学進学事業」、「中核的人材育成事業」、「地域連携事業」を推進しており、震災復興の取組としては主に中核的人材育成事業の中で平成24年度から実施している「被災地の学校で高校生・大学生がともに学ぶワークショップの開発」と「ボランティア論・リーダーシップ論等の授業開発」が挙げられます。



高校生と大学生がともに学ぶワークショップの様子

ワークショップの開発では、沿岸被災

地の高校生といてコンソ連携校の学生がともに被災地(故郷)の復興を考え、進学・就職などの将来に新たな気づきを与えることを目的に毎年ワークショップを実施しております。今年度は6月に宮古市において「私たちの未来を考える」をテーマに、岩手県の復興推進実施計画(第2期)や三陸創造プロジェクトへ若者の立場から提言をまとめました。(高校生61名、学生26名が参加)

授業開発では、前期に「ボランティアとリーダーシップ」、後期に「危機管理と復興」を開講しています。土曜日の午後に2コマずつ、毎回異なるテーマで日本全国各地の大学から駆けつけて下さるボランティア教員にご担当いただき、ボランティア活動に関する知識や技能など、復興の担い手として必要な知見の獲得を目的として行っています。この講義内容をもとに、平成25年10月に冊子「復興は人づくりから～全国大学ボランティア教員15名による特別講義～」をまとめました。

いわて高等教育コンソーシアム連携班では引き続き、地域復興を担う中核的人材の育成事業を推進し、地域に根ざし、地域を支えていく人材の育成を目指していきます。



講義をまとめた冊子「復興は人づくりから」

久慈エクステンションセンターだより

寒さが最も厳しい時期ですが、NHK 連続テレビ小説「あまちゃん」ロケ地としての賑わいの余熱がまだまだ残る久慈市の久慈エクステンションセンターからお伝えします。

●野田村漁協特産・活ホタテの長距離輸送試験の実施

野田村漁協では、大ぶりで肉厚な貝柱が特徴の養殖ホタテを「活ホタテ」と商標登録して震災以前からブランド化に取り組んでいますが、今後は九州地方まで流通させることを目指しています。

活けの状態を送り届けられる出荷方法や、送り先でのホタテの状態をどう評価すべきか、という相談をいただき、三陸水産研究センター・マーケティング戦略部門(部門長・対馬正秋教授)が支援対応し、平成25年12月16日から18日にかけて長距離輸送試験を実施しました。

ホタテの活性評価の方法は、東京海洋大学 鈴木徹教授から助言を得て、酸化還元電位(活性電位)を測定する方法で行うこととし、ホタテの封入条件が異なる3箱を東京(海洋



鹿児島大での活ホタテの活性評価作業には水産学部学生にご協力いただきました



年に一度の開催「のだホタテまつり(25年12月15日)」(写真提供:野田村観光協会)

大)と鹿児島市(鹿児島大)それぞれに送って活性状態を調べたところ、18日(48時間以上経過)鹿児島到着時点で本学が提案した梱包方法にて明瞭に活性が良好という結果を得ました。

今後も各種条件を検討・解析しながら、ホタテのみならず県産水産物の市場競争力強化のための出荷方法・技術の確立を目指し、漁協や関係機関と連携していきます。

●久慈近隣のおみやげ情報

当センターでは平成25年4月から、野田村産オニグルミ(くるみ工房くる美人がむき身生産)を使ったスイーツを開発する中京大学の産学連携プロジェクトに携わっています。これまでに「くるみマフィン」「くるみプリン」などの商品が開発され、マフィンは野田村観光物産館「ばあぶる」や道の駅くじ内の「産直まちなか」で店頭販売されています。マフィンは名古屋コーチン卵のkokとさつまいもの自然な甘さに、オニグルミ特有の旨味・風味がマッチしたものに仕上がっています。久慈市、野田村へお越しの際はおみやげにぜひどうぞ!



くるみマフィン。バターを使うず低カロリーを実現しています

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 久慈エクステンションセンター

〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1番1号 久慈市役所(3階) 産業開発課内
TEL:090-2953-2519 E-mail:kujixt@iwate-u.ac.jp

Information

岩手大学三陸復興推進機構シンポジウム

震災から3年を迎えるにあたり、岩手大学がこれまでに取り組んできた震災復興へ向けた活動を報告するシンポジウムを開催します。

開催日時 3月1日(土) 13:00~17:00 会場 岩手大学 総合教育研究棟(教育系)北桐ホール

内容

- ・三陸復興推進機構各部門の活動報告
- ・学生ボランティア活動報告
- ・展示活動コーナー(パネル・成果物の展示)

お問い合わせ 三陸復興推進室 TEL:019-621-6629

編集後記

このたび岩手大学の工学部敷地内に「ものづくり研究棟」が竣工し、1月22日に竣工式が開催されました。研究棟では工学部の得意分野である金型・鋳造・デバイスの3分野を融合して研究を行うことで、新たな鋳造部品や電子部品の開発を進め、地域の産業にイノベーションを起こすことが期待されます。この研究棟から地域の再生・活性化が促されることで、震災復興にもつなげることができるよう、研究・教育を進めてまいります。



ものづくり研究棟外観